

電気保全



プラントが最高の動きを安定して発揮できるよう、
電気設備の納入・点検・補修を通じて
運転に欠かせない電気の安全な供給を支えます。

なぜ電気保全が必要なの？

発電所で生まれ、送電線で送られてくる電気は、設備に応じた使いやすい電圧・周波数に変換して供給することができます。設備の状況や故障の有無も、電気を監視すれば読み取れます。でも電気そのものは直接目で見ることができませんし、その大きなエネルギーの取扱いを間違えると感電や短絡、火災などを招くこともあります。

とても便利だけれど取扱いが難しい電気。その能力を発揮するには常に安全に配慮しながらサポートする必要があります。この仕事を担うのが電気保全の役割です。

電気保全の具体的な仕事とは

主な仕事は電気設備の納入と保守です。納入では設置に始まり、他の設備との接続や基本動作の確認・調整、そして試運転まで行って、お客様に取める電気設備が要求を満たしていることを証明します。ここで万一問題があった場合、現地で一部改造も行います。

保守は電気設備の点検・清掃・部品交換などを、あらかじめ立案した計画に基づいて行います。経年劣化や損耗による故障の未然防止に努めながら、古い電気設備では更新や交換の推奨・提案も行い、プラントが常にベストな状態を保つよう支援します。

電気保全



電気の仕事では計算がいっぱいありそうですが、難しくはないですか？



機器の作動や保護・制御ができていないかを確認するのが仕事です。その確認のために計算することは多いですが、電卓で簡単にできます。



電気の装置っていろいろありそうですが、覚えるのが大変ですね！



複雑な回路を持つ装置も、突き詰めれば基本的な回路の組み合わせです。なので単純化していけば分かりやすくなります。



機器の仕事をするということは、客先での仕事が多いということですか？



はい。図面の調査や検査手順書の作成を社内で行い、それをもとに客先で作業します。近地はもちろん遠地や海外の場合もあり、月の半分くらいは出張になると思います。



パソコンやプログラムなどを使うこともありますか？



最近はPLC(Programmable Logic Controller)というパソコンの兄弟のような装置を扱うことが多いですが、大電流や高圧を取り扱う機器では専用の機械で設定することもあります。ジャンルは好みで決めればよいと思います。

免許&資格

- ・電気工事士
- ・電気工事施工管理技士
- ・電気主任技術者
など

